

5 具体的な栽培方法

キュウリ (ウリ科)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
春植え				■	■	■	■	■	■	■	■	■
夏まき					■	■	■	■	■	■	■	■
収穫												

キュウリは主に生食用に使われ、周年八百屋の店頭に出ていますが、家庭で作るには、春植えキュウリと夏まきキュウリが適しています。特に夏まきキュウリはタネからまき、夏の間30～40日間も毎朝とれて重宝ですし、新鮮な味は格別です。春植えキュウリは、気温が低い時期の家庭での育苗が難しいので、苗を入手して植えます。

品 種

【春植え用品種】イボの黒い“黒イボ系品種”は低温短日で雌花がつき、節なり性（各節に実がつく）で、低温でもよく生育し、根の再生力も強く、また、漬け物にすると歯切れがよいのですが、肉質がかたいため生食用には嫌われ、少なくなっています。イボの白い“白イボ系品種”は果皮がやわらかく肉質もよいので、生食用として多く作られるようになりました。白イボの品種はとび節なり性（とびとびに実がつく）で、主に実がつくのは主枝ですが、ときには側枝にもなります。

生食用：清涼白イボ、たちばな、筑波白イボ、夏埼落3号、さつきみどり、近成、ときわ

漬け物用：久留米落合H号、翠星2号、すずか、兵交4号、松のみどり

【夏まき用品種】白イボ系品種と四葉系品種、地這い品種があります。四葉系品種はきわめて品質がよく、生食向き。地這い品種はあまりよくありませんが、支柱の必要がなく家庭菜園で作りやすくて便利です。

生食用：清涼白イボ、はつかり、うずしお、ときわ、むさし、大利根、新光A号、山東四葉、久留米四葉、まつかぜ、さちかぜ

漬け物用：霜しらず、黒皮地這い

栽 培 ポ イ ン ト

キュウリは温和な気候を好み、適温は18～25度です。しかし夏キュウリは比較的暑さに強い性質です。よく肥えた膨軟な土を好みますが、半日以上日の当たるところならよく育ちます。

キュウリは連作すると、つる割病、菌核病、センチュウなどの土壌伝染性の病害虫が多くなりますから、4～5年に1度の輪作とします。植えつけやタネまきに際しては、畝を作る1週間ほど前に、1㎡あたり2握りの苦土石灰をまき、シャベルで土とよくまぜて耕しておきます。

●春植えキュウリ● 春植えキュウリは、細い繊細な根が密生し、水平に伸びて、大部分が深さ30cmまでの表土に分布しますから、肥料は畝全体に施します。また、土の水分を多く要求するので、乾燥すると生育がよくありませんが、反対に過湿になると通気が悪くなり根の機能が衰えるので、有機物（堆肥類）を施し、排水のよい畑に作りましょう。

春植えキュウリの苗は繊細ですから、植えつけは急がず、地温が十分上がった5月上～中旬に行います。植えつけ7～10日前に元肥えを畝にすきこんで、整地しておきます。植えつけは曇天無風の午前中に行うのが理想ですが、家庭では土、日曜などに植えつけたいことも多いので、風の日だけは避け、必ず暖かな午前中に植えます。

前日に液肥をやっておき、植えつけ当日は水やりせずに、翌日、午前中に水やりします。

●夏まきキュウリ● 夏まきキュウリは、春植えキュウリにくらべて根が深く入ります。また深く根を張らしたほうが夏の乾燥に耐えるので、そのためにも、深いまき溝のそこに元肥えを施し、さらにタネをじかまきします。

●整枝● 実のなり方の習性は系統ごとに違いますから、白イボ系、黒イボ系、四葉系、地這い、それぞれの品種の実の付き方に合った整枝を行うようにします。また、春植えキュウリも夏まきキュウリも、整枝しないと、わき芽がたくさん出て、つるがからみあって茂りすぎ、よい実が付きにくくなります。

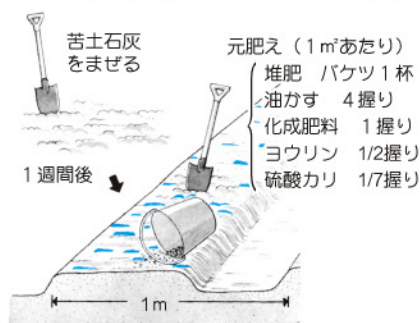
夏まきキュウリも、地這い種以外は、春植えキュウリと同じように支柱を立てます。

栄 養

水分がほとんどで、わずかにビタミンB、Cやアデニン、アルギニンを含み、利尿効果があります。

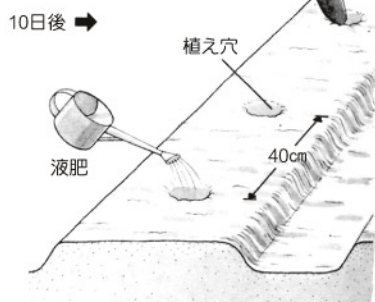
1 畝 作 り

植えつけ予定の10日前に、1m幅のベッド畝を作る。元肥えは畝全体にまいて、土とよくまぜる。



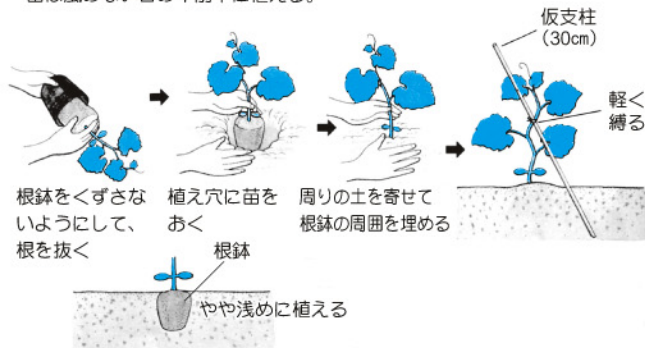
2 植えつけ準備

5月上～中旬、植えつけの前日に、株間40cmに浅い植え穴を掘り、液肥（液肥特2号など）を、植え穴になつぷりやる。



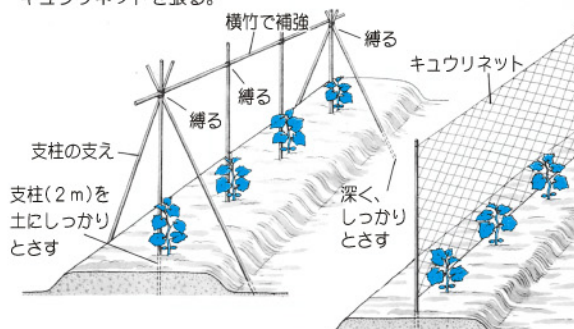
3 植えつけ

苗は風の強い日の午前中に植える。



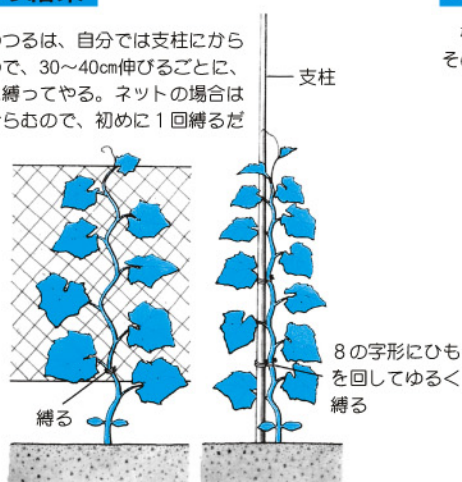
4 支柱立て

本葉5～6枚のころ、長さ2mの支柱を立てるか、キュウリネットを張る。



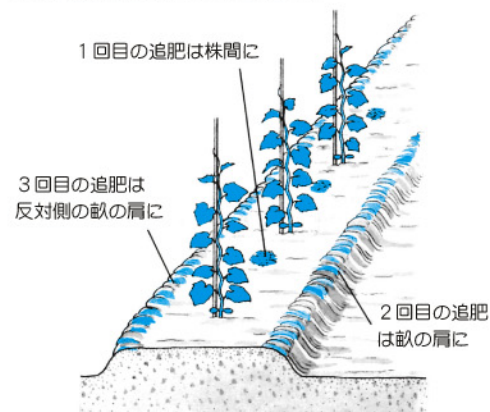
5 つるの結束

キュウリのつるは、自分では支柱にからみつけないので、30～40cm伸びるごとに、ひもで支柱に縛ってやる。ネットの場合は巻きひげがからむので、初めに1回縛るだけでよい。



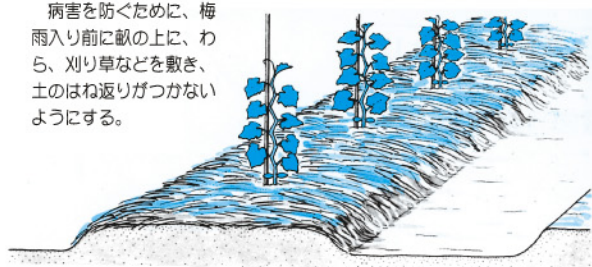
6 追肥

植えつけ15日後に油かす1握りと、化成肥料1/2握り強を施す。その後10～15日ごとに化成肥料1/2握りを施す。



7 敷きわら

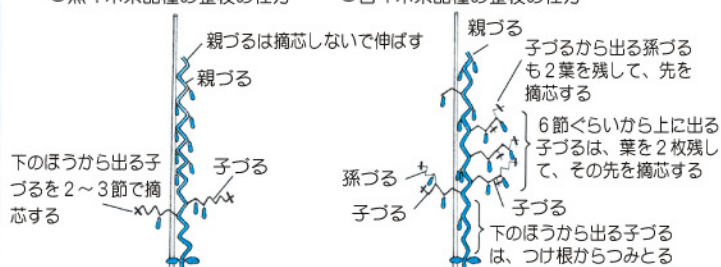
病害を防ぐために、梅雨入り前に畝の上に、わら、刈り草などを敷き、土のはね返りがつかないようにする。



8 整枝

○黒イボ系品種の整枝の仕方

○白イボ系品種の整枝の仕方



9 収穫

6月中旬から収穫が始まる。1番果は、大きくしないで早めに収穫する。最盛期には、10～13日で100gぐらいの大きさになる。

主な病害虫

◆病気 ウイルス病、べと病、炭疽病、つる枯れ病、黒星病、うどんこ病

◆害虫 アブラムシ、ウリハムシ、タネバエ

